

実体経済の動向

◇生産、出荷とも増勢鈍化

(生産——生産調整を背景に増勢落着き気配)

鉱工業生産(季節調整済み)は8月に前月比-1.4%と減少のあと、9月(速報)は+0.8%の微増にとどまった。3ヵ月移動平均値の前月比でも、6月+1.4%、7月+1.0%、8月横ばいと伸び率の鈍化が目立ち、鉄鋼、自動車、家電等の生産調整を背景に生産活動はようやく落着きに向かいつつあるようにうかがわれる。なお、9月の生産は前年同月比では+15.0%と44年初めのかげり現象当時(44年3月+14.8%)の水準にまで低下した。

生産動向を特殊分類別にみると、9月は建設資材および耐久消費財が減少したほかは各財とも増加した。まず、一般資本財(+2.6%)はトラクター、化学機械、運搬機械(クレーン、コンベア、エレベーター)等が減少したものの、圧延機械の著増、重電機の増産を中心に前月に続きかなりの増加を示した。資本財輸送機械は乗用車(1,500～

2,000cc)、トラックとも軒並み増加を示したが、このうちトラックについては8月の落込みを回復するには至らなかった。また、生産財の増加(+0.5%)は、前月減産の鉄鋼、化学肥料のほか、アルミ、合繊等の増加が主体であり、反面、このところ在庫の増加が目だっていた一部電子製品(真空管)、繊維原料、塩ビ樹脂等は減産となった。一方、建設資材の減少(-0.5%)には鉄骨、橋りょうの減少が響いており、セメント、板ガラス等の主製品はいずれも増産となっている。耐久消費財(-3.7%)では乗用車(360～1,000cc)、二輪自動車を除き減産となったものが多く、とくに夏物家電製品(エアコンディショナー、扇風機)、白黒およびカラーテレビ等はかなりの減少を示した。

なお、このところ市況の軟化や在庫の増加傾向に対処して、鉄鋼、弱電、自動車等の主要業種で生産調整ないし増産計画修正の動きが広がっており、鉄鋼主要メーカーは当面10～12月期について、40年以来はじめての粗鋼減産方針を打ち出している。

(出荷——引き続き伸び悩み傾向)

鉱工業出荷(季節調整済み)は、8月に前月比-2.9%とかなりの低下を示したあと、9月(速報)

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	44年		45年		45年		
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7月	8月	9月
鉱工業指数	190.1	199.2	205.5	216.0	222.8	219.7	—
前期(月)比	4.2	4.8	3.2	5.1	0.4	-1.4	0.8
前年同期(月)比	17.1	17.7	19.0	18.4	18.4	16.9	—
投資財	4.8	7.2	7.9	6.5	-0.1	-1.0	0.8
資本財	5.4	7.2	10.1	6.3	-0.6	0.2	4.2
同(輸送機械を除く)	2.7	10.2	12.2	6.1	-0.6	2.6	2.6
輸送機械	9.8	1.8	5.7	7.4	-1.5	-6.7	—
建設資材	3.8	6.8	2.4	6.2	1.4	-4.1	-0.5
消費財	2.7	3.2	-2.1	6.2	2.2	-3.9	-1.9
耐久消費財	5.0	6.6	-4.9	5.8	1.9	-3.4	-3.7
非耐久消費財	0.9	1.5	1.6	4.8	2.7	-3.9	0.9
生産財	4.1	4.8	3.1	2.9	-0.4	-0.1	0.5

(注) 通産省調べ、45年9月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	44年		45年		45年		
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7月	8月	9月
鉱工業指数	184.7	192.5	202.7	205.4	213.2	207.0	—
前期(月)比	3.5	4.2	5.3	1.3	1.1	-2.9	1.0
前年同期(月)比	17.6	18.0	20.2	15.4	15.9	14.2	—
投資財	1.0	5.4	10.3	2.1	-0.1	-1.9	-0.2
資本財	-0.3	5.5	14.0	0.4	-0.9	-1.0	-0.2
同(輸送機械を除く)	4.8	5.9	10.8	2.2	0.4	1.6	2.0
輸送機械	-8.2	5.1	-21.0	-4.2	-3.6	-6.2	—
建設資材	3.9	5.4	0.9	6.5	2.2	3.8	-0.2
消費財	3.6	3.5	1.3	2.2	2.4	-4.8	-1.5
耐久消費財	9.6	4.8	-2.7	3.3	0.6	-4.1	-2.6
非耐久消費財	1.4	3.0	3.2	0.9	4.0	-4.0	0.4
生産財	5.2	3.7	4.2	0.9	0.6	-2.0	3.9

(注) 通産省調べ、45年9月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

は+1.0%の増加となった。不規則変動の大きい船舶を除けば+1.7%(前月は-2.8%)といくぶん伸びが高まるが、水準としては前年同月比+11.2%と41年3月以来の低さである。なお、3ヵ月移動平均の前月比では6月+1.6%、7月+0.8%、8月-0.3%となり、生産の伸びを下回っている。

特殊分類別にみると、まず生産財の増加(+3.9%)が目だっているが、これは鉄鋼(熱間圧延鋼材、冷延広幅帯鋼)が輸出船積みの集中を主因にかなり伸長したほか、化学肥料も中国向け輸出を主体に著伸したことが響いている。そのほかでもアルミ、石油製品、板紙、合繊等一部前月減少の反動もあって増加したものが多い。一般資本財の増加(+2.0%)については、これまで低調であったトラクターや農業機械の増加のほか、大型圧延機械、重電機の引渡し集中も響いているようである。一方、資本財輸送機械の減少はもっぱら船舶によるものであり、建設資材も鉄骨、橋りょうを中心に微減(-0.2%)となった。耐久消費財の減少(-2.6%)は夏物家電、白黒・カラーテレビの落込みによるが、反面、洗たく機、冷蔵庫、乗用車(360~1,000cc)は大幅な増加を示した。

(製品在庫——9月も小幅ながら増加)

製品在庫は、ここ数ヵ月大幅な増加を続けてきたあと、9月(速報)も前月比+0.4%となった(原計数の前年同月比+22.2%、8月+21.5%)。財別にみると、建設資材(+2.5%)では需要期控えのセメントのほか、みがき板ガラス、建設用陶磁器等が増加し、非耐久消費財(+3.1%)もメリヤス製品、ポリエチレン製品、紙等を中心に増加したが、その他の財はいずれも微減を示した。そのうち、資本財輸送機械は乗用車、トラックが軒並み減少となり、一般資本財(-0.8%)でも風水力機械を除き、農業機械、工作機械等減少を示したものが多。耐久消費財(-0.3%)でも、需要期控えの石油ストーブのほか、需給緩和の目だつカラーテレビおよび乗用車(1,000~1,500cc)は増加したものの、その他の品目はほぼ軒並み減少した。生産財も微減(-0.2%)となったが、これは鉄鋼

鉄工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	44年		45年		45年		
	9月	12月	3月	6月	7月	8月	9月
鉄指数	173.2	186.4	185.5	199.1	203.5	211.5	—
前期(月)末比	2.9	7.6	-0.5	7.3	2.2	3.9	0.4
前年同期(月)末比	21.2	20.3	16.3	18.3	19.2	21.5	22.2
製品在庫率	91.8	95.0	89.0	94.4	95.5	102.1	101.5
投資財	0.4	11.0	3.3	13.7	4.7	3.3	-0.9
資本財	-2.7	14.8	1.7	17.9	6.3	3.6	-3.3
同(輸送機械を除く)	-4.9	14.1	4.0	17.0	5.9	6.3	-0.8
輸送機械	9.5	18.3	-9.2	20.9	7.9	-7.6	—
建設資材	4.8	6.7	5.3	8.3	3.1	2.9	2.5
消費財	6.7	7.5	-5.7	6.1	1.0	3.4	1.3
耐久消費財	9.8	5.7	-2.2	8.2	1.9	2.3	-0.3
非耐久消費財	1.1	2.4	-2.9	5.4	0	3.5	3.1
生産財	-0.3	7.4	1.8	7.0	1.6	5.1	-0.2

(注) 通産省調べ、45年9月は速報。

前年同期(月)末比は原指数による。

の輸出船積み進捗によるところが大きく、非鉄、合繊、塩ビ等は引き続き増加傾向をたどっている。

以上の結果、9月の製品在庫率指数は101.5と前月(102.1)より若干低下したが、依然高い水準を持続している。出荷、在庫を3ヵ月移動平均でならした在庫率指数をみても、7月の97.3に続き8月99.7と上昇している。特殊分類別には、建設資材、耐久消費財、非耐久消費財がそれぞれ前月に続き上昇したが、一般資本財、資本財輸送機械、生産財は低下し、とくに資本財輸送機械の低下が目だった。

(原材料在庫——9月は大幅増加)

原材料在庫(季節調整済み)は、8月に前月比-1.8%減少のあと、9月(速報)は+3.5%と大幅な増加を示した(うち国産分+2.9%、輸入分+4.5%)。業種別には、鉄鋼(鉄くず、鉄鉱石、普通鋼鋼材)および船舶(鋼材)の著増が目だつほか、紙・紙加工品(段ボール原紙)、化学(原料油脂)、繊維(毛・綿織物、合繊織物)等も増加している。当月の増加については、生産調整、製品出荷の停滞に伴う加工段階での製品原材料の滞留増に加え、素

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	45 年			45 年		
	3月	6月	9月	7月	8月	9月
在庫指数	155.1	159.4	170.0	167.2	164.2	170.0
前期(月)末比	3.5	2.8	6.6	4.9	-1.8	3.5
国産分	4.4	3.7	5.1	3.7	-1.6	2.9
素原材料	0.9	4.8	7.0	4.5	-0.6	3.0
製品原材料	4.7	3.4	5.3	3.8	-1.5	3.0
輸入分	1.1	-1.5	11.3	8.6	-1.8	4.5
素原材料	1.9	-2.0	11.3	8.8	-1.8	4.3
在庫率指数	77.7	78.4	83.8	81.8	80.3	83.8
国産分	74.3	75.7	80.0	78.2	77.1	80.0
素原材料	80.2	84.0	88.9	87.6	86.6	88.9
製品原材料	75.0	76.0	80.7	78.7	77.6	80.7
輸入分	90.5	88.2	94.5	92.5	89.5	94.5
素原材料	91.0	88.1	94.0	92.6	89.7	94.0

(注) 通産省調べ、45年9月は速報。

原材料も原材料消費の減少(9月は-0.8%)と輸入既契約分の入着増などから増加したことが響いているとみられる。

(販売業者在庫——おおむね横ばい)

販売業者在庫(季節調整済み)は、4～6月期に前期比+7.2%と著増のあと、7月は前月比-0.1%、8月(速報)+0.8%とこのところ在庫投資手控えの動きを映じおおむね横ばいに推移している。品目別にみると、8月は民生用電気製品がテレビ、テープレコーダーを中心に引き続き増加し、需要期控えの石油製品も増加したが、6月まで大幅増加の目だった鋼材は微増にとどまり、一方、自動車は高水準ながらやや減少を示した。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	44年	45 年		45 年		
	12月	3月	6月	6月	7月	8月
総合指数	157.8	160.8	172.3	172.3	172.2	173.5
前期(月)末比	8.2	1.9	7.2	0.2	-0.1	0.8
素原材料	11.3	-4.2	-6.2	2.5	6.0	0.6
製品	7.7	2.7	8.4	0.3	-0.5	0.5

(注) 通産省調べ、45年8月は速報。

(設備投資——9月は資本財出荷、機械受注とも増加)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み)は8月に前月比+1.6%のあと、9月(速報)も+2.0%の増加となった。7～9月では前期比+7.4%と4～6月期の伸び(+2.2%)を大幅に上回っており、設備投資は依然高水準にあるとみられる。

一方、先行指標である機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み)は、8月に前月比-11.5%と減少したあと、9月は+19.3%とかなりの増加を示し(前年同月比は8月+11.7%、9月+32.2%)、3ヵ月移動平均値の前月比でみても、6月-1.0%、7月-4.2%と減少のあと、8月は+10.8%の増加となった。受注先業種別にみると、石油精製が44年度認可分の集中計上から著増したほか、電力、鉄鋼、紙・パルプ等もかなりの増加を示したが、反面、自動車、繊維等は前月増加の反動もあって減少した。もっとも、9月の増加については、期末月という一時的事情によるところも少なくなく、10～12月期の受注見通しでは前期比-2.1%の微減(7～9月期実績同+5.0%)が見込まれている点からみても、最近における機械受注の落着き基調に変化はないものとみられる。

この間、9月の建設工事受注額(民間産業、季節調整済み、速報)は、8月-3.7%と減少のあと+8.8%の伸びを示し、3ヵ月移動平均値の前月

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	44年	45 年		45 年		
	1～3月	4～6月	7～9月	7月	8月	9月
民需	2,739	2,522	2,690	2,593	2,559	2,917
	(+23.2)	(-7.9)	(+6.6)	(+23.7)	(-1.3)	(+14.0)
同(船舶を除く)	2,385	2,314	2,430	2,478	2,194	2,619
	(+16.4)	(-2.9)	(+5.0)	(+29.9)	(-11.5)	(+19.3)
製造業	1,410	1,487	1,370	1,353	1,301	1,457
	(+3.9)	(+5.4)	(-7.8)	(+4.1)	(-3.9)	(+11.9)
非製造業	1,360	1,036	1,308	1,245	1,255	1,423
	(+58.3)	(-23.8)	(+26.2)	(+55.2)	(+0.8)	(+13.4)
同(船舶を除く)	986	832	1,065	1,145	914	1,136
	(+39.7)	(-15.6)	(+28.1)	(+84.0)	(-20.2)	(+24.3)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

比でも、6月+0.2%、7月+0.1%と横ばいのあと、8月は+4.9%の増加となった。もっとも、内容的には電力、運輸、商業・サービス等非製造業の増加が目立つ反面、製造業は化学、鉄鋼、機械等からの受注頭打ちを主因に増勢が鈍化しており、ひとところとはかなり様相を異にしている。

◇商品市況は弱含み商状を持続

10月の商品市況をみると、綿糸、石油製品、セメント、砂糖等一部の品目は堅調を続けたが、反面、鉄鋼のほか非鉄がじり安となり、合繊、木材、合成樹脂、紙等も軟調に推移するなど、総じてみれば弱含み商状を持続した。

鉄鋼、非鉄、合成樹脂、紙等では、メーカーが市況軟化に対処して生産抑制の態度を一段と強めているにもかかわらず、秋需の盛り上がりが見えなく、需給の引きゆるみ傾向にさして変化がみられない。10月下旬の公定歩合引下げ後も、その影響は現在のところ市況面にはまだほとんど現われておらず、依然供給圧力の増大等に伴う先安見越しから買い控え傾向が続いているよううかがわれる。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……冷薄が自動車、弱電向け出荷の不振から一段安となったのをはじめ、各品種とも続落した。このような状況下、メーカーではホットコイルの減産を強化しているほか、新たに冷延鋼板、大形形鋼(うちH形鋼はすでに4月から減産実施中)、普通線材等についても減産を実施、さらに粗鋼減産の方針をも打ち出すに至っているが、特約店、ユーザー筋の買付け態度が先安見越しから一段とシビアになっているため、荷動きは低調を続けている。

繊維……綿糸は続伸したが、反面合繊、スフ糸等は弱含みに推移した。綿糸の上伸は、基本的には紡績スペースの減少から供給が押えられているのに対し、遅れていた機屋、ニッターの糸手当て進捗もあって需要が堅調を続けていることによるものであるが、その他の品種については、秋冬物衣料の売れ行き低調や輸出不振のほか、金融緩和

後も中間需要が伸び悩んでいるため需給地合いは総じて不ざえを続けている。

非鉄金属……銅が大幅下落を示したほか、鉛、ニッケル等も弱含みに推移するなど、ここへきて軟調の度を強めた。銅の大幅下落は、LME相場が米国自動車スト長期化やLME在庫の大幅増大から、約2年ぶりに500ポンド／トンの大台を割るに至ったことが主因であるが、一方国内の需給動向をみても、電線・伸銅メーカー等ユーザー筋が買い控えを続けているため、山元在庫は大幅に増大している。

石油製品……元売り各社が今月にはいり卸売り価格をいっせいに引き上げたため、相場は一段高となった。すなわち、ガソリンは元売り・特約店筋の売り腰強化から、また灯油は需要が上向きかげんにあることから、ともに強含んでおり、C重油も、製品輸入が増加しているものの、需給が緩和するまでには至らず、引き続き強含みで推移している。

セメント……官公需の伸長を中心に荷動きが活発化、メーカーでは値上げ交渉に強い態度をみせており市況も強含みとなっている。

木材……外材の入荷増に圧迫されて荷余り感が濃く、市況も一部高級材を除けば弱含みを続けている。このため、合板や米つが製材については、在庫凍結、大手商社による買上げなど市況対策が進められている。

化学品……合成樹脂では、塩ビ、ポリプロピレン、ポリスチレン等が軟調の度を強めたが、なかでも、塩ビは供給力の増大(第5次増設設備の稼働)のほか、弱電や自動車(内装材)向け出荷の伸び悩みもあって、メーカーの売り急ぎがみられ続落した。基礎薬品では、供給が不足しているカーバイドが強含みを続けた。

紙……洋紙では、上質紙の荷もたれ感が依然として強いほか、クラフト紙についても、メーカーが10月以降予定していた値上げが製袋業者の強い抵抗にあい実現をみるまでには至っていない。一方板紙も、青果物関係を中心に需要がやや上向きつ

つあるものの、弱電、繊維向け出荷が依然低調のため、供給力の増加を吸収するまでには至らず、段ボール原紙、平板紙とも弱含んでいる。

砂糖……秋需期入りに伴う実需活発化を背景に現物相場(上白)はじり高歩調をたどり、40年以來の最高値を示現、これに伴いメーカー出し値も引き上げられた。

(卸売物価——落着きぎみ)

9月の卸売物価は、総平均で前月比+0.1%の微騰にとどまった。類別にみると、非鉄金属が海外安を映じて大幅統落をみたほか、鉄鋼、繊維品も反落したが、反面、食料品は季節需要の台頭もあって大幅に上昇、石油・石炭・同製品、木材・同製品、雑品目等も統騰した。

産業分類別では、工業製品が大企業性製品の値下がり(前月比-0.4%)から前月比-0.1%と3ヵ月ぶりに反落を示したが、一方非工業製品は農水産物の値上がりを主因に前月比+0.9%とかなりの統騰をみた。

10月にはいってからは、上旬に前旬比+0.1%のあと、中旬は同-0.1%と4旬ぶりに下落し、概して落着きぎみに推移している。類別にみると木材・同製品、石油・石炭・同製品、金属製品が統騰した反面、鉄鋼、非鉄金属は引き続きかなりの下落を示し、食料品、繊維品、機械器具も反落ないしは騰勢一服となっている。なお、産業分類別では、工業製品が市況商品の軟調を映じて弱含み(上旬保合い、中旬-0.1%)を続けており、また非工業製品も農水産物および鉄・銅くず類の値下がりを主因に、中旬は前旬比-0.3%と7月下旬以来8旬ぶりに下落した。

(工業製品生産者物価——9月は反落)

9月の工業製品生産者物価は、前月比-0.1%と3ヵ月ぶりに反落(前月は同+0.2%)した。これは、食料品、繊維二次製品、石油・石炭製品等が統騰した反面、普通鋼鋼材、天然および化学繊維が反落、非鉄金属、合繊、紙・パルプ・同製品等も統落したためである。

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位: %)

	ウェ イト	前年度比上昇率		最 近 の 推 移 (前月(旬)比上昇率)							
		43年度 平均	44年度 平均	45 年			45 年 9 月			45 年 10 月	
				7 月	8 月	9 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬
総 平 均	100.0	+ 0.6	+ 3.2	保 合	+ 0.2	+ 0.1	- 0.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	- 0.1
食 料 品	15.7	+ 5.2	+ 4.2	- 0.3	+ 0.5	+ 1.3	+ 0.1	+ 0.3	+ 1.0	+ 0.4	- 0.1
繊 維 品	10.7	- 0.9	+ 0.4	+ 1.0	+ 1.4	- 0.2	- 0.3	保 合	+ 0.1	+ 0.1	保 合
鉄 鋼	9.7	- 4.4	+ 11.3	+ 0.4	+ 0.1	- 0.6	- 0.2	- 0.4	- 0.3	- 0.8	- 0.6
非 鉄 金 属	4.4	- 0.5	+ 18.2	- 4.0	- 2.9	- 3.1	- 1.6	- 0.1	- 0.3	- 0.3	- 1.3
金 属 製 品	3.8	+ 0.7	+ 3.0	+ 0.2	- 0.2	保 合	+ 0.1	保 合	- 0.2	+ 0.3	+ 0.2
機 械 器 具	22.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	保 合	+ 0.1	保 合	保 合	+ 0.1	- 0.2	保 合
石油・石炭・同製品	5.6	- 1.3	- 1.5	- 0.1	+ 0.4	+ 0.6	+ 0.3	- 0.1	+ 0.5	+ 1.2	+ 0.1
木材・同製品	6.2	+ 5.2	+ 3.0	+ 0.1	+ 1.0	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.1	- 0.4	+ 0.1	+ 0.4
窯 業 製 品	3.0	+ 1.8	+ 2.3	+ 0.4	+ 0.2	+ 0.6	+ 0.3	保 合	+ 0.4	+ 0.3	保 合
化 学 品	7.6	- 2.2	- 0.4	- 0.2	- 0.1	+ 0.3	保 合	+ 0.3	保 合	保 合	保 合
紙・パルプ・同製品	3.4	- 0.9	+ 3.7	+ 0.1	- 0.1	+ 0.3	+ 0.1	- 0.2	+ 0.2	+ 0.3	- 0.1
雑 品 目	7.9	+ 0.9	+ 2.7	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.5	+ 0.4	保 合	+ 0.1	- 0.1	保 合
工 業 製 品	82.0	+ 0.3	+ 3.0	+ 0.1	+ 0.2	- 0.1	保 合	- 0.1	+ 0.2	保 合	- 0.1
うち 大 企 業 性	59.6	- 0.4	+ 2.3	保 合	保 合	- 0.4					
中 小 企 業 性	21.0	+ 2.2	+ 4.4	+ 0.4	+ 0.9	+ 0.5					
非 工 業 製 品	18.0	+ 2.1	+ 4.1	- 0.7	+ 0.5	+ 0.9	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.3	+ 0.3	- 0.3

(注) 本行調べ。

工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウェ イト	前年度比 上 昇 率		最 近 の 推 移 (前月比上昇率)		
		43年度 平 均	44年度 平 均	45 年		
				7 月	8 月	9 月
総 平 均	100.0	+0.3	+2.4	保 合	+0.2	-0.1
食 料 品	12.6	+5.7	+2.4	+0.3	+0.2	+1.2
天然および化学繊維	3.0	-4.7	-1.1	+1.0	+0.4	-3.1
合 成 繊 維	1.4	-6.4	-3.1	-0.5	-0.6	-0.6
織 物	2.8	-0.5	+1.3	+2.0	-0.2	-0.4
繊維二次製品	3.2	+5.3	+3.4	-0.1	+3.6	+1.3
普通鋼鋼材	7.2	-5.3	+10.2	+0.2	+0.8	-0.9
特殊鋼鋼材その他	2.5	-2.1	+3.0	保 合	-0.6	保 合
非 鉄 金 属	4.4	-0.5	+16.5	-3.4	-2.5	-3.4
金 属 製 品	4.6	+0.6	+2.2	+0.3	-0.1	-0.1
一 般 機 械	10.4	+2.1	+1.6	+0.5	+0.4	+0.1
輸 送 機 械	8.3	-1.6	-1.2	保 合	保 合	+0.1
電 気 機 械 器 具	9.1	-1.0	+0.1	-0.1	-0.4	保 合
石油・石炭製品	3.7	-1.3	-1.6	+0.2	+0.6	+0.3
木材・同製品	5.0	+5.1	+3.5	+0.3	+0.9	+0.1
窯 業 製 品	3.4	+0.9	+1.4	+0.5	+0.3	+0.3
化 学 品	7.8	-2.6	-1.0	保 合	-0.5	保 合
紙・パルプ・同製品	4.5	-0.1	+2.9	+0.5	-0.1	-0.2
雑 品 目	6.1	+0.2	+2.7	+0.1	-0.1	+0.2

(注) 本行調べ。

(消費者物価——大幅統騰)

消費者物価(東京)は、9月に前月比+2.7%のあと、10月(速報)も+1.8%の大幅統騰を示し(季節商品を除く総合では前月比+1.5%)、前年同月比では+8.5%と40年4月(同+8.5%)以来の上昇となった。

これは、食料費が野菜、酒類(清酒、ビール)の値上がりから大幅上昇(前月比+3.0%)を示したことが主因であるが、そのほかの費目でも住居費が設備修繕費高からかなりの値上がり(同+1.3%)となり、また被服費(身の回り品)、光熱費(灯油)および雑費(交通費)も統騰した。

(9月の輸出入物価——輸出物価統落の反面、輸入物価は反騰)

9月の輸出物価は、前月比-0.3%と8月(同-0.3%)に続き下落した(船舶を除く総平均では前月比-0.4%の統落)。品目別にみると、食料品、機械器具が引き続き値上がりした反面、金属・同

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

			ウ エ イ ト	前年度比 上 昇 率		最近の推移 (前月比上昇率)			最 近 の 年 月 比
				43年度 平 均	44年度 平 均	45 年			
						8 月	9 月	10月	
消 費 者 物 価	東 京	総 合	100.0	+5.2	+6.6	+0.5	+2.7	+1.8	+ 8.5
		(季節商品を除く)	91.4	+5.6	+5.6	+0.6	+1.5	+1.5	+ 6.6
		食 料	40.9	+6.5	+8.1	+0.5	+3.8	+3.0	+10.4
		住 居	10.7	+2.4	+3.0	+0.3	+0.4	+1.3	+ 5.6
		光 熱	4.5	+0.3	+0.3	+0.1	+0.2	+1.0	+ 1.2
		被 服	13.0	+5.5	+7.2	+0.5	+7.2	+0.7	+11.2
		雑 費	31.0	+5.3	+6.3	+0.6	+0.3	+0.9	+ 6.5
	全 国	総 合	100.0	+4.9	+6.4	+0.5	+2.2		+ 7.4
		(季節商品を除く)	91.4	+5.3	+5.2	+0.3	+1.1		+ 6.1
		上 都 道 府 県	100.0	+4.9	+6.6	+0.5	+2.3		+ 7.5
人口50万以下		91.3	+5.3	+5.3	+0.4	+1.1		+ 6.2	
輸 入 物 価	輸 出		+0.6	+4.0	-0.3	-0.3		+ 4.0	
	輸 入		-0.3	+3.8	-0.8	+0.4		+ 3.1	
	輸 入 交 易 条 件		+0.9	+0.2	+0.6	-0.7		+ 0.9	

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。
2. 45年10月は速報。

製品、繊維品、化学製品、雑品目は輸出環境の悪化もあって統落した。

一方、輸入物価は、前月比+0.4%と5ヵ月ぶりの反騰となった。これは、食料品、鉱物性燃料、機械器具が統騰したほか、雑品目、化学製品も反騰を示したことによる。なお、金属、繊維品は統落した。

◇国際収支は大幅の黒字

9月の国際収支は、貿易収支が季節的事情もあって大幅黒字となったうえ、長期資本収支が比較的小幅の流出超にとどまったことなどから、総合収支では393百万ドル(前月同178百万ドル)と既往最高の黒字となった(従来のは最高は44年9月の341百万ドル)。

季節調整後の貿易収支は、前月減少をみた輸出が米国向けを中心にかなりの増加となった一方、輸入は前月比小幅増加にとどまったため、月中の黒字幅は314百万ドル(前月同223百万ドル)と再び3億ドル台に乗せた。

長期資本収支の流出超幅は75百万ドルと、前月

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	45 年			45 年			44 年 9月
	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	7月	8月	9月	
経常収支	67	386	629	193	193	243	226
貿易収支	591	858	1,136	375	339	422	375
輸出	4,050	4,599	4,975	1,686	1,572	1,717	1,417
輸入	3,459	3,741	3,839	1,311	1,233	1,295	1,042
貿易外収支	△ 465	△ 422	△ 461	△ 162	△ 128	△ 171	△ 130
移転収支	△ 59	△ 50	△ 46	△ 20	△ 18	△ 8	△ 19
長期資本収支	△ 438	△ 463	△ 321	△ 163	△ 83	△ 75	22
本邦資本	△ 670	△ 435	△ 398	△ 139	△ 118	△ 141	△ 118
外国資本	232	28	77	△ 24	35	66	140
基礎的収支	△ 371	△ 77	308	30	110	168	248
	(37)	(28)	(48)	(△ 6)	(△ 6)	(60)	(143)
短期資本収支	185	149	247	85	76	86	28
誤差脱漏	170	△ 49	△ 95	△ 36	8	139	65
総合収支	△ 16	23	650	79	178	393	341
金融勘定	△ 16	23	650	79	178	393	341
外貨準備増減	372	△ 99	△ 213	△ 261	19	29	100
その他	△ 388	122	863	340	159	364	241
外貨準備高	3,868	3,769	3,556	3,508	3,527	3,556	3,226
為銀対外 ポジション	395	419	1,185	670	825	1,185	391

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支			通 関		輸 出	輸 出	輸 入
	輸 出	輸 入	貿 易 じ り	輸 出	輸 入	信用状	認 証	承 認
44年 10~12月	1,394 (+ 4.3)	1,090 (+ 3.2)	304	1,416 (+ 4.2)	1,345 (+ 0.6)	1,216 (+ 7.5)	1,513 (+ 7.0)	1,268 (+ 1.6)
45年1~3月	1,499 (+ 7.6)	1,166 (+ 6.9)	333	1,538 (+ 8.6)	1,479 (+ 10.0)	1,235 (+ 1.6)	1,584 (+ 4.7)	1,401 (+ 10.5)
4~6月	1,548 (+ 3.2)	1,227 (+ 5.2)	321	1,578 (+ 2.6)	1,534 (+ 3.7)	1,260 (+ 2.1)	1,627 (+ 2.7)	1,465 (+ 4.5)
7~9月	1,612 (+ 4.1)	1,320 (+ 7.6)	292	1,628 (+ 3.2)	1,664 (+ 8.5)	1,304 (+ 3.4)	1,700 (+ 4.5)	1,574 (+ 7.5)
45年 7 月	1,653 (+ 2.9)	1,314 (+ 3.1)	339	1,643 (- 0.2)	1,678 (+ 1.8)	1,267 (- 0.1)	1,707 (+ 2.3)	1,619 (+ 6.2)
8 月	1,535 (- 7.1)	1,312 (- 0.2)	223	1,563 (- 4.8)	1,654 (- 1.4)	1,308 (+ 3.2)	1,598 (- 6.4)	1,592 (- 1.6)
9 月	1,647 (+ 7.3)	1,333 (+ 1.6)	314	1,680 (+ 7.5)	1,660 (+ 0.4)	1,336 (+ 2.1)	1,795 (+ 12.4)	1,510 (- 5.2)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
 2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。
 3. 季節調整はセンサス局法による。

(同83百万ドル)に続き低水準にとどまった。これは、本邦資本が輸出の伸長に伴う延払い信用・借款の供与増高から141百万ドルの流出超(前月同118百万ドル)となったものの、反面外国資本が対日証券投資の大幅流入超(92百万ドル、前月同24百万ドル)を主因に66百万ドルの流入超(前月同35百万ドル)を示したためである。

金融勘定では、為銀の対外ポジションは期末の関係もあって買持輸出手形が増大したほか、輸入金融の円シフト(本行の輸入資金貸付実施に伴う外為会計の対為銀スワップ取引)による外銀借入れの減少もあって360百万ドルの大幅改善を示し、一方外貨準備は月中29百万ドルの増加にとどまった(月末残高3,556百万ドル)。

9月の輸出は、前年同月比で+21.2%(前月+16.4%)、季節調整後の前月比でも+7.3%(前月-7.1%)とかなりの増加を示した。これは、米国向けが期末月を迎えての輸出ドライブの高まりもあって、自動車、鉄鋼を中心に久方ぶりの高い伸び(通関ベース、前年同月比+28%、前月+15%)をみせたほか、アフリカ向け(同+42%)なども好調であったためで、反面西欧向け(同+19%)は前月

同様船舶の落込みから伸び率が鈍化し、また東南アジア向け(同+13%)も引き続き不ぞろいに推移した。品目別にみると、自動車(同+45%)、鉄鋼(同+31%)、ラジオ(同+25%)、事務用機器(同+83%)等の好調が目だった反面、船舶(同-19%)は前月に引き続き前年を下回り、また、テレビ(同+6%)、綿織物(同-15%)等も低調が続けた。

10月の輸出信用状接受高は、前年同月比+15.7%(前月+14.0%)、季節調整後の前月比では+4.6%(前月+2.1%)と順調な増加を示した。

10月の接受高を品目別に前年同月比でみると、機械類が自動車、一般機械の好調から高い伸びを続けたほか、化学製品も中共向け肥料や欧米向け合成樹脂を中心に著増したが、鉄鋼はアジアおよび欧州向けの伸び悩みが響いて小幅の増加にとどまり、繊維製品も引き続き低調であった。地域別には、米国向けが自動車、化学製品等の好調にささえられてますますの増加を示したが、欧州向けは

高水準ながら鉄鋼の伸び悩みもあって増勢が鈍化し、アジア向けは鉄鋼、一般機械等の低調から小幅の増加にとどまった。

9月の輸入は、前年同月比では+24.3%(前月+20.3%)と引き続き高水準ながら、季節調整後の前月比では+1.6%(前月-0.2%)と6、7月ごろまでに比べやや増勢鈍化きみとなった。品目別

通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	45 年			45 年		
	1~3月	4~6月	7~9月	7 月	8 月	9 月
食 料 品	125 (+ 22)	160 (- 7)	199 (+ 18)	62 (+ 13)	69 (+ 16)	68 (+ 26)
魚 介 類	59 (+ 12)	65 (+ 13)	94 (+ 16)	28 (+ 24)	32 (+ 19)	34 (+ 7)
繊維製品	497 (+ 6)	584 (+ 4)	624 (+ 8)	215 (+ 10)	205 (+ 7)	204 (+ 7)
綿 織 物	40 (- 21)	46 (- 19)	48 (- 12)	17 (- 7)	15 (- 14)	16 (- 15)
合繊維物	123 (+ 27)	147 (+ 23)	167 (+ 23)	56 (+ 26)	55 (+ 23)	56 (+ 21)
化学製品	287 (+ 44)	296 (+ 32)	308 (+ 6)	101 (+ 6)	95 (- 2)	113 (+ 13)
非金属 鉱物製品	86 (+ 1)	95 (- 4)	96 (- 4)	32 (- 2)	31 (- 7)	33 (- 3)
金属製品	820 (+ 36)	940 (+ 36)	1,010 (+ 31)	324 (+ 28)	329 (+ 36)	357 (+ 30)
鉄 鋼	633 (+ 41)	689 (+ 36)	749 (+ 34)	242 (+ 34)	238 (+ 38)	269 (+ 31)
機械機器 (船舶を除く)	1,933 (+ 27)	2,113 (+ 25)	2,280 (+ 23)	796 (+ 28)	696 (+ 17)	788 (+ 23)
テレビ	71 (+ 16)	88 (+ 7)	119 (+ 8)	39 (+ 18)	40 (+ 1)	40 (+ 6)
ラジオ	136 (+ 29)	169 (+ 24)	197 (+ 21)	62 (+ 13)	64 (+ 25)	71 (+ 25)
自動車	266 (+ 21)	306 (+ 31)	362 (+ 37)	120 (+ 32)	114 (+ 36)	127 (+ 45)
船 舶	397 (+ 35)	318 (+ 32)	278 (+ 8)	136 (+ 52)	56 (- 10)	86 (- 19)
光学機器	105 (+ 19)	123 (+ 11)	134 (+ 15)	47 (+ 16)	42 (+ 12)	45 (+ 18)
そ の 他	383 (+ 15)	481 (+ 11)	536 (+ 14)	186 (+ 16)	174 (+ 8)	176 (+ 18)
合 計	4,131 (+ 25)	4,668 (+ 21)	5,054 (+ 19)	1,717 (+ 21)	1,599 (+ 16)	1,738 (+ 20)
(船舶を除く)	3,734 (+ 24)	4,350 (+ 20)	4,776 (+ 20)	1,580 (+ 19)	1,543 (+ 17)	1,653 (+ 24)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	45 年			45 年		
	1~3月	4~6月	7~9月	7 月	8 月	9 月
食 料 品	579 (+ 15)	605 (+ 17)	670 (+ 24)	219 (+ 22)	210 (+ 29)	241 (+ 23)
小 麦	82 (+ 13)	66 (- 12)	92 (+ 23)	32 (+ 10)	29 (+ 12)	32 (+ 54)
とうもろこし	74 (+ 26)	78 (+ 24)	64 (+ 17)	22 (+ 2)	19 (+ 56)	22 (+ 9)
砂糖	58 (+ 11)	63 (+ 52)	76 (+ 59)	22 (+ 70)	28 (+ 80)	26 (+ 35)
原 燃 料	2,421 (+ 26)	2,636 (+ 30)	2,704 (+ 24)	924 (+ 29)	857 (+ 18)	922 (+ 26)
羊 毛	97 (- 3)	93 (- 5)	90 (- 16)	34 (- 18)	30 (- 11)	27 (- 19)
綿 花	111 (+ 2)	131 (+ 14)	111 (+ 14)	39 (+ 32)	34 (- 3)	38 (+ 15)
鉄 鉱 石	265 (+ 22)	306 (+ 25)	310 (+ 23)	99 (+ 14)	94 (+ 13)	117 (+ 42)
鉄鋼くず	66 (+ 108)	102 (+ 143)	109 (+ 67)	42 (+ 115)	32 (+ 47)	35 (+ 46)
非鉄金属鉱	255 (+ 72)	274 (+ 77)	270 (+ 31)	87 (+ 49)	97 (+ 26)	86 (+ 21)
大 豆	87 (+ 33)	87 (+ 26)	88 (+ 27)	27 (- 4)	26 (+ 69)	34 (+ 34)
木 材	338 (+ 28)	385 (+ 16)	419 (+ 24)	149 (+ 26)	132 (+ 22)	138 (+ 24)
石 炭	188 (+ 26)	249 (+ 58)	276 (+ 50)	95 (+ 57)	90 (+ 45)	91 (+ 47)
原 油	544 (+ 17)	534 (+ 18)	541 (+ 19)	185 (+ 28)	166 (+ 3)	190 (+ 27)
化学製品	239 (+ 29)	255 (+ 32)	250 (+ 28)	84 (+ 21)	82 (+ 36)	84 (+ 29)
機械機器	561 (+ 54)	591 (+ 46)	557 (+ 27)	188 (+ 34)	187 (+ 22)	182 (+ 26)
鉄 鋼	81 (+ 24)	74 (+ 44)	77 (+ 53)	27 (+ 81)	28 (+ 75)	22 (+ 14)
非鉄金属	262 (+ 24)	237 (+ 15)	237 (- 1)	91 (+ 30)	75 (- 7)	71 (- 24)
そ の 他	259 (+ 51)	282 (+ 44)	336 (+ 38)	113 (+ 43)	115 (+ 40)	108 (+ 33)
合 計	4,403 (+ 29)	4,680 (+ 30)	4,829 (+ 24)	1,646 (+ 30)	1,554 (+ 21)	1,629 (+ 23)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

(通関ベース)にみると、石炭(前年同月比+47%)が、米国の輸出規制を懸念した鉄鋼メーカーの積極的な買付け、現地の出炭順調などから高い伸びを続け、また鉄鉱石(同+42%)、重油(同+33%)等も海上運賃の高騰が響いてかなりの増加となった。原油(同+27%)も石油製品の需要堅調、新增設備の繰上げ稼働から増大した。一方、鉄くず(同+46%)、銑鉄(同+14%)は、鋼材需給引きゆるみに伴う生産調整の具体化から鉄鋼メーカーがスポット買いの抑制、現地シッパーに対する船積み繰延べ要請を行なっているためひとところに比べ伸び率が鈍化し、そのほか非鉄金属(鉱石同+21%、地金同+24%)、羊毛(同+19%)も内需不振、海外相場の軟化傾向から輸入手控えの動きがみられ、引き続き低調に推移した。

9月の輸入承認は、前年同月比で+17.1%(前月+29.5%)と伸び悩み、季節調整後の前月比でも-5.2%と前月(-1.6%)に続いて減少した。品目別にみると、鉄鉱石、銑鉄等の鉄鋼原材料がメーカーの生産調整実施を反映して低調であったほか、食料品(とうもろこし等)も海外相場高騰に伴う輸入手控えから伸び悩んだ。

(45年度上期中の国際収支状況)

本年度上期中の国際収支をみると、貿易収支はほぼ前年同期(黒字1,980百万ドル)並みの1,994百万ドルの黒字となったものの、長期資本収支が外人証券投資の低調(流入超17百万ドル、前年同363百万ドル)などから784百万ドルの大幅赤字(前年同26百万ドル)となり、また貿易外収支も輸出入規模の拡大等に伴う運輸収支の悪化などから赤字幅が拡大(883百万ドル、前年666百万ドル)したため、総合収支の黒字は673百万ドルと前年同期(同1,295百万ドル)比はほぼ半減した。

黒字幅縮小に対する項目別寄与度をみると、外

人証券投資の流入超幅縮小(346百万ドル)が約5割、インパクト・ローンおよび外債の流入超減が約4割となっており、貿易規模の拡大に伴う運輸収支や長期本邦資本収支などの赤字幅拡大分は、BCユーザンス等貿易信用享受の増加による短期資本収支の黒字幅拡大分によって相殺された形となった。

なお、上期中の輸出は、米国向けがやや伸び悩みぎみとなったものの、西欧向けが好調に推移したため、全体としては前年比+20.4%(44年下期+22.5%、44年上期+23.5%)と高水準を続けた。一方、輸入は鉱工業生産の増大や輸入価格の上昇を反映して原燃料を中心に前年比+27.0%(44年下期+25.8%、44年上期+18.2%)と輸出を上回る増勢を示した。

45年度上期中の国際収支状況

(単位・百万ドル)

	45年度上期 (A)	44年度上期 (B)	前年同期比 (A-B)
経常収支	1,015	1,223	△ 208
貿易収支	1,994	1,980	△ 14
輸出	9,574 (+20.4)	7,949 (+23.5)	1,625
輸入	7,580 (+27.0)	5,969 (+18.2)	1,611
貿易外収支	△ 883	△ 666	△ 217
移転収支	△ 96	△ 91	△ 5
長期資本収支	△ 784	△ 26	△ 758
本邦資本	△ 833	△ 643	△ 190
外国資本	49	617	△ 568
基礎的収支	231	1,197	△ 966
短期資本収支	396	44	352
誤差脱漏	46	54	△ 8
総合収支	673	1,295	△ 622
金融勘定	673	1,295	△ 622
外貨準備増減	△ 312	13	△ 325
その他	985	1,282	△ 297

(注) カッコ内は前年同期比増減率(%)。